

えりもしゃくなげ



教育委員会だより 発行者 教育長 川上松美

家庭へのお願い、一つ

- 「家庭学習の言葉がけをしてほしい」ということです。
- 学校では小・中・高が一致して、家庭学習の指導を行っています。
- しかし、実態としては、学校によって差はありますが、各学校で子どもの実態に応じて手立てを講じています。
- 小学校高学年、中・高生では、家庭での生活で、特に、携帯やスマホ、そして今ではSNS（共通の趣味等をもつ仲間がネットを通して交流し合う）などを楽しみ、家庭学習の時間が極めて少ないことが分かっています。
- 基礎力が身に付くには、繰り返しや振り返りの学習が必要なことは承知のことと思います。そこで、学校だけの取組に任せるのではなく、各家庭が親の役割を果たすため、学校との絆を深めた取組となるよう、協力をお願いいたします。

えりも中で積極的に 自主公開研究会 体育の授業で話し合い深化



えりも中学校では、対話的な学習活動、見通し・振り返りのある授業を通して、『主体的に学習活動に取り組む生徒の育成』に取り組んでいます。

特に、協同活動を取り入れた学習活動と学習規律の徹底を図って進めることを内容としています。

11月29日(水)には、1年生が保健体育科で「創作ダンス」の授業を行い、研究を深めました。

上の写真は、「考え～よりよい作品にするために、どんな工夫をしたらよいか。これまで学習したことを生かしながら考えよう」の場面です。生徒は自らの考えを真剣に交流していました。



授業が終わった後、参加した先生方が集まり、授業の振り返りをしました。写真は、話し合う内容を2つに絞り、ワークショップ型話し合い（よかった点と改善点を出し合う）を行い、グループで話し合ったことを発表しているところです。

このように、えりも中学校では、本年度、研究の協議を7回行い、指導力の向上に取り組んでいます。

町内全ての学校で指導力向上の深化

○町内の各学校では、えりも中学校と同様に、教育局指導主事の学校教育指導や講演、研究会などの機会に、必ず本時の授業計画を指導略案に示し、計画立てて、指導力向上に努めています。

エンピツの持ち方～チャンピオン



この写真は、学校訪問時の2年生の姿です。鉛筆の持ち方、正しい姿勢（立腰）が素晴らしいです。日本人にとって、漢字やひらがなには、筆順がありますが、最近では、特に、筆順が間違っていたり、整った字が書けなかったりしている例が見られます。

鉛筆の正しい持ち方は、正しい筆順、整った字を書く上で大切な一つです。このことは、学校だけでなく、幼児教育を含めて、学校と家庭が連携し、入学時や入学当初から、徹底して習慣づけることが大切です。

考えを深める～黒板で意見交換



今、変化する時代に対応できる子どもを育成する指導の一つに、「主体的で対話的な深い学び」が求められています。このことは、これまでも、ペア学習やグループ学習などを通して互いの意見を交流し合い、よりよい考えになるよう、授業でも進められてきました。

写真は、それぞれの考え方を交流し合っている様子です。一人一人の考えを出し合って思考の深まりが生まれ、よりよい考えを求め合うことができたようです。

伝える力の育成～地域学習発表会



笛舞小学校では、12月に総合的な学習の時間に、1年間、ふるさとで調べたことをまとめ、地域の皆さんに発表しています。

保護者やおじいちゃん、おばあちゃんも参観し、堂々と発表している姿に感心していました。日常の国語や算数などを通して、伝える力の育成を図る取組を行い、総締めくくりとして実施する発表会となっています。

1年生から6年生までが調べたり、地域の方々インタビューしたことなどをまとめ、発表する姿は、ほんとうに素晴らしいです。